

子育て今むかし

2002.12.30

こどもの生まれる数がずいぶん減ってきたのに、子育てに悩んであるいはちょっとしたことが心配で小児科を訪ねる保護者の方が増えてきています。おばあちゃんは子育ての知恵袋なのですが、むかしと今の子育ての違いに戸惑っているおばあちゃんも増えてきているようです。小児科外来のひとつコマからそんな戸惑いを拾ってみました。

「抱き癖」

ナツキちゃんは笑顔のかわいい4ヶ月の女の子。お母さんに抱かれているとスヤスヤいい気持ちで寝ています。起きたときもお母さんの腕に抱かれてお母さんと何かお話をしてふたりのコミュニケーションを見せてくれます。お母さんは初めてのお子さんがかわいくて仕方がありません。ちょっと小さく生まれて新生児室にいた時間が長かったので、お母さんはナツキちゃんをたくさん抱っこしてあげたいと思っていました。新生児室の看護師さん、担当してくれた新生児科の先生、訪問してくれた保健師さん、乳児健診を受けた小児科の先生や看護師さんもそろって「たくさん抱っこしてね」っていわれてそのとおりにしていたら、実家のおばあちゃんに「抱き癖がつくからやめなさい！」って。どうしてですか？おばあちゃんに聞いても「抱き癖がついても知らないからね！」って理由を教えてくださいえないのです……。そこまでお話してお母さんはついに診察室の中で泣き出してしまいました。

涙がおさまったころ、私はこんなお話をしました。

むかしは確かにそういわれていましたね。おばあちゃんが子育て真最中のころは家族の中でお母さんがそんなに赤ちゃんに時間をかけていることができなかつたのかもしれませんが、でも、赤ちゃんにとってお母さんの腕にだかれていることはむかしも今も重要なのです。むかしはお母さんが抱っこしない時間はきっと家族の他の人が抱っこしていたのかもしれませんが、ナツキちゃんはお母さんにだかれているととっても気持ちよさそうですね。人は誰でも小さなころからお母さんや家族の人としっかりコミュニケーションを持つことが大切なのです。抱っこしてあげることはその最初の記念すべき1ページです。だからたくさん抱っこしてあげて、お母さんがナツキちゃんの安心の基地になってあげてください。お母さんはちょっと安心した顔で、「自信をもって抱っこします」といわれて診察室を去りました。抱き癖を心配する方はまだまだ多いです。しかし、抱き癖が子どもの心に悪さをしたという話を私は聞いたことがありません。これを読んでくれたお母さん、大きな声で抱っこするぞ宣言してくださいね。